

## 第6章（2018年 災の年）

全国的に地震、豪雨、台風、猛暑などの自然「災」害の脅威を痛感した一年。「災」害の経験から全国的に防「災」意識が高まり、多くの人が自助共助の大切さを再認識した年

（公益財団法人 日本漢字能力検定協会発表から）

### 2018.1.14 日経歌壇から

亡き友の妻が賀状に書き添えし息子が二十歳に目を閉づ暫し  
（川崎 西崎恭司） 選者：三枝昂之

選者評：夫なき後の苦勞が「二十歳」という添え書きから羨み、涙ぐましい気持ちにさせられる（日経歌壇1/13）。

⇒早くに夫を亡くしシングルマザーとなって息子を育てた作者の苦勞と喜びが伝わってくる。「奥さん、よく頑張ったね」と褒めてあげたい。

後期高齢者になると賀状に書き添えられた現況に「歳相応に元気です」から「リハビリ中です」「1人になってしまいました」までいろいろ。

・厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は12日、「日本の世帯数の将来推計」を発表した。世帯主が65歳以上の高齢世帯は2040年に全世帯の44.2%を占めるようになる。略 また40年には高齢者世帯の40%が一人暮らしとなる。身近に頼る人がいない高齢者の増加は社会制度にも大きな影響を与えそうだ（国立社会保障・人口問題研究所 Press Release 2018/1/13から）。

⇒推計結果のポイント（要点）を整理すると以下の通り。

1 世帯総数は2023年をピークに減少開始、平均世帯人員は減

少が続く。

・世帯総数は2023年の5,419万世帯でピークを迎えるが、2040年には5,076万世帯まで減る。

・平均世帯人員は、小規模な世帯が増加することにより減少を続け、2040年には2.08人となる。

2 「単独」「夫婦のみ」「ひとり親と子」の割合が増加。

・2015～40年の間に「単独」世帯は34.5%→39.3%、「夫婦のみ」は20.2%→21.1%、「ひとり親と子」は8.9%→9.7%と割合が上昇する。

一方で、かつて40%以上を占めた「夫婦と子」は26.9%→23.3%に、「その他」は9.5%→6.6%と低下する。

3 世帯主の高齢化が進み、65歳以上の高齢世帯が増加する。

・全世帯主に占める65歳以上世帯主の割合は36.0%→44.2%に増加する。また65歳以上世帯主に占める75歳以上世帯主の割合も46.3%→54.3%と増加し、高齢世帯の高齢化も一層進展する。

4 高齢者の独居率が上昇。

・2015～40年の間に65歳以上男性の独居率は14.0%→20.8%、女性は21.8%→24.5%と上昇する。75歳以上では、男性は12.8%→18.4%と上昇するが、女性は26%前後でほとんど変化しない。

⇒人口減少・少子化で2世代同居や3世代同居が減り、1980年代以降に未婚が珍しくなくなった世代が高齢期に入るため高齢者の独居率が高まる。私には22年先の家族から親せき、知り合い、地域社会の隣人まで含めて考えると他人事とは思えない。

・配偶者も子どももない一人暮らし高齢者は経済的にも健康面でも不安定な状況になりやすい。特に「自営業などで基礎年金しか受け取れない高齢者は年金額も少なく、貧困に陥りやすい」（日本総研の西沢和彦主席研究員）。

介護が必要な状態となったときに家族がいなければ、全面的に社会制度に頼ることにもなりかねない（日経2018/1/13）。

・大きな問題は未婚のひとり暮らし高齢者が増加することだ。配偶者だけでなく子どももいないことが考えられるので、老後を家族に頼ることが難しい。地域で支え合う社会をつくる必要がある。

・社会保障の機能強化も必要だ。無駄の削減を続ける一方で、国民の負担能力に配慮しながら、税や社会保険料を引き上げて制度の持続性を高めざるを得ない（藤森克彦・みずほ情報総研主席研究員・日本福祉大教授 日経2018/1/13）。

⇒高齢世帯や高齢ひとり暮らしになる可能性のある予備軍は「備え」をどうすればいいのか。「政府に頼らず自分年金を創っておこう」「地域のお付き合いを大切にしよう」などの自助はもちろん、普段から地域や友人間の共助を深めておくことが必要だ。

## 2018.1.22 新聞歌壇から

たまはりし命と思ふ癌癒えし夫と炊き立ての新米食む

（青森 安田溪子） 選者：三枝昂之

選者評：健康なときには見えない命の大切さ。新米の美味しさはそのまま「たまはりし」という日々の暮らしへの愛おしみ（日経歌壇1/20から）。

⇒前立腺がんの放射線治療と消化器がんの摘出手術で二つのがんサバイバーになり、がんはいったん消失した状態が続いているが「治った」とは思っていない。まだまだ、がんが潜んでいる可能性があり、決して「克服した」わけではない。

再発リスクを抱えたまま、経過観察を続けながら毎日を平穩

に暮らしていることに感謝している。炊き立ての新米に限らず毎日の生活そのものが「たまはりし」命だと思う。

ご健勝お祈りしますと年賀状社交辞令でなき日が来たり

(茅ヶ崎 磯田 清) 選者：三枝昂之

選者評：型どおりの挨拶に実感が籠もる。年齢を重ねた人ならではの感慨だろう（日経歌壇1/20から）。

⇒すでに喜寿になり、年1回のご挨拶の年賀状、特に書き添えることも「お元気でしょうか。ご健勝お祈りします」と型どおり。でも、年賀状を差し出した人も、受け取った人も、これ以上思い浮かばないのだ。

あの人はお年のせいで同じことを何度もいうと母がまた言う  
(宝塚市 萩尾亜矢子) 選者：高野公彦

選者評：ユーモラスな歌だが、じつはシリアスな内容である(以上、今日の朝日歌壇から)。

⇒この歌も高齢者短歌だ。「老いの繰り返り事」は80歳を過ぎると誰にでも起こる。老年でもない中年で、同じことを繰り返す言うのであれば恥ずかしいが愚痴を繰り返す言う人はいる。お年のせいで同じことをいう老人には、叱ったり愚痴ったりしないで優しく聞いてあげよう。シリアス(まじめ、重大)に考えることもない。老年者のユーモアだと聞き流せばよい。

傍白

繰り返り言こと：(クリコトとも) ①同じことを繰り返してくどくど言うこと。また、その言葉。〈日葡〉「老いの一」②愚痴をいうこと。また、ぐち(広辞苑第7版)。

引用先の〈日葡〉日葡辞書：にっぽじしょは「イエズス会宣教師の手に成る日本語＝ポルトガル語辞典。慶長8(1603)年に本編、翌年補遺が長崎で出版された。当時の日常語をはじめ

文書語、女房詞など3万2,000語以上を収録し、語義と用例を示す。室町時代日本語の最も重要な資料の一つ」(ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典の解説から)。

⇒戦国末期から、人は老いると「繰り返り言」を言うのだろうか。たまに辞書を引いてみるのも面白い。

#### 2018.2.4 新聞歌壇から

「範として老を生きよ」と古希たちに励まされぬ元教師吾

(沼津 近藤昭三) 選者：三枝昂之 選者評：なし

(日経2/3から)

⇒この歌の作者である元教師に「範として老を生きよ」と励ましたのは古希たちだが、この歌の作者はいったい何歳なのか。お名前が昭三さんだから昭和3年生まれだと思えば今年90歳。この逆はあり得てもこれでは不自然だ。

書店に行けば多くの「人生の生き方本」が並んでいる。宗教心が薄く、道徳や説教を説く論述がすぐに呑み込めない私には荷が重い。

範として生きよ、模範になれ、お手本になれ…今の私にはできそうにもない。

春の夜の夢ばかりなる枕頭にあっあかねさす召集令状

(塚本邦夫)

・民主主義の危機と戦争の不安が日に日に色濃くなっている。こんな危うい時代に生きるとは、何年か前までは、思いもよらなかった。歌にもこの時代が映しだされている。

気がつけば、ある朝召集令状が届けられる、それが現実になりっこないとは、もはや誰にも断言できない(今日の朝日・うたをよむ・藤原龍一郎稿)。

⇒これは、プロの歌人になる短歌とプロの歌人による短歌評からの引用だ。現在の安倍1強政治の様相を熟視して、安部内閣の憲法改正の進め方を「民主主義の危機と戦争の不安が日に日に色濃くなっている」と感じておられるのだろうか。

・安倍首相は31日の参院予算委員会で、憲法改正を巡り「最終的には国民投票によって国民が決めるものだ。国民がその権利を実行するためには国会で議論を深めていくことが必要であり、私たちにはその義務がある」と語った（日経2/1から）。

⇒憲法改正が「今はその時なのか、未だ早いのか」。当然、安倍首相はそこまで含めて議論を深めようと述べていると信じた。

藤原龍一郎さんの短歌評が杞憂に終わることを全国民が願っている。

### 2018.2.13 過剰な謙遜 不要 今日の日経・私見卓見から

大学で英語を教える教員として、学生が「Sorry for my poor English（英語がつたなくて恐縮です）」と前置きしてから話す場面に遭遇する。日本人が日本語の会話で謙遜するのは、自らへりくだることでコミュニケーションを円滑にしようとするからだが、英語の言い回しとしては違和感を抱く。

まず poor English という表現だ。米国人や英国人といった英語を母語とする話者と比べ、自らの発する英語が劣っていることを示す。そもそも英語の非ネイティブがネイティブのように話すのは難しく、そこまで高い水準はめったに求められないだろう（立命館大学 国際部副部長・准教授・山中司稿）。

⇒まったくその通り、英語の非ネイティブがネイティブのように話すのは難しいのだ。日本人は、遠慮と謙遜を教養や美德

と考えネイティブのように話せないことを自覚しすぎるのではないか。

・過剰に謙遜することにより、語学能力以外の会話の中身まで劣っているかのような印象も与えかねない。英語が世界の共通言語となる中、各地の発音などは、むしろオリジナリティーとして強調されることも少なくないのだ。

⇒世界の共通言語としての英語を非ネイティブの日本人が話す場合、それはインターナショナル・イングリッシュで充分なのだ。ネイティブも非ネイティブもお互いに耳を傾けよく聴き、丁寧に話すから会話が通じるのだ。

・日本人の英語に対する苦手意識は今に始まったことではないが、実際は決して poor でないと感じる。会話に限らず、英語によるコミュニケーションが全く成立しないケースはほとんど見受けられない。なのに、会話中に「maybe」をつけて断定を避けたり、褒められても「No」を連発して自ら卑下したりもする。会話の中身を確かめもせず、笑ってごまかす場合すらある。

⇒これは私の英会話のことか？「よくご覧になっているなあ」と思う。確かに自信の無い時は「maybe」をつけるし、please や thank you を多用するし、結構です。こちらこそありがとうございます…の積りで No Thank you を連発する。「会話の中身を確かめもせず、笑ってごまかす場合」など私には、よくあることだ。

・もっと上達して完璧になってから英語を使うなどと考えず、現在の実力をさらけ出すことだ。無駄に恥ずかしがらず、褒められれば素直に受け入れれば良い。教育や文化の影響で身についた減点主義の結果だろうが、謙遜したところで英語の話し相手は十分にわかってはくれない。

⇒英語で話す場合ビギナーの時代には事前に構文を考え話していたが、咄嗟に最初の言葉が出てくるようになれば、後は考えながらゆっくり話せるようになる。相手に分かってもらえたとと思えない場合は、別の構文で言い直しをすればよい。「もっとも、どんな英語でも通じさえすればいいという考え方にも限界はある。語学力の向上は一朝一夕では難しく、絶えず磨いていくしかない」。

・だからこそ「話せない」よりも「話せる」に照準を合わせ、能力の高い相手と同じ目線で英語を使おうとするほうが、真の英語上達の近道になるはずだ」。

⇒これが筆者の文末のまとめ、今日のブログは、グローバル時代を生きる高校生や大学生に読んでほしい。後期高齢者の私には、すでに手遅れ、また、その必要もないが「少しだけ英語ができ、本当によかった」と思う。

## 2018.2.14 20代は人生の土台作り 今日の日経から

これからの会社員に必要なのは語学とIT（情報技術）だとよく聞く。確かに英語力はあるに越したことはないし、パソコンにも詳しい方がいいだろうが、コモンズ投信の渋沢健会長に言わせると「他にも大事なことがある」。

それは歴史を学ぶことだ。渋沢氏は資本主義の父といわれる渋沢栄一氏の玄孫にあたる。そんな渋沢氏は「歴史を学ぶことは過去へ遡ることではない。どの時代にも通じる人間の普遍性を学ぶこと」と語る。

⇒大学を卒業し、4月から社会人になる若者に、人生の先輩が「20代は土台作り」の時期だと助言している。

・大和総研の川村雄介副理事長も歴史を学ぶべきだと指摘する。

グローバル化の時代だからこそ、自国の歴史や文化を知ることには意義がある。「海外で教養人として一目置かれる人は、自国の歴史を自分の言葉で語れる人」。「川村氏は歴史や文化の勉強に加え、中学生程度の数学の学び直しを勧める。コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める基礎になるためだ。数理的な思考に長けた人は、論理立った話ができる。歴史の勉強も数学の学び直しも、頭の軟らかい20代のうちがチャンスだ」という。

⇒分かり易く分解すると、グローバル化、IT化の時代に生きるためには、一定レベルの英語力と、IT機器を自由自在に使いこなせるスキルを身に付け、その上、さらに自国の歴史はもちろん、世界の歴史を自分の言葉で語れる人になり、中学高校程度の数学の学び直しで数理的思考に長けた人になってほしい。20代の今はチャンスだ。私が付けくわえたいのは、歴史や文化に加え「世界や日本の地理」を知ること重要だ。

・働き方が多様化し、もはや転職は珍しくない。投資会社エピックュール・グループ社長の青木健太郎氏は大学を卒業後、新日本製鉄（現新日鉄住金）に入社、30代で山一証券に移り英国現地法人の本部長、40代は日本たばこ産業でJT英ロンドン社長と会社を変わるたびにキャリアアップした。

青木氏は「20代のうちから、自分の商品価値を高める努力を怠るな」と助言する。青木氏の言う商品価値とは、社内の人事評価ではなく、社外の人から見ても有能な人材であることを指す。そうなるためには、「10年くらい上の先輩で、自分もこうなりたいと思う人を見つける。その人と積極的に交わり、吸収する努力を重ねるべし」という。

⇒日経紙の「私の履歴書」に登場する著名人の多くは「先輩



や年長者の影響力や指導の大切さ」を教えている。青木さんは、「10年くらい上の先輩で、自分もこうなりたいと思う人を見つけなさい」という。なるほど、10年位の年の上下差ではお互いの意思疎通が容易になる。

・20代のうちは仕事で失敗することも多いが、恐れることはない。失敗から学んだことは財産になる。同じ失敗を繰り返すのは論外だが、自分で判断し、結果として失敗に終わった経験を若いうちに積んでおきたい。

⇒たとえ失敗しても20代の失敗は許されることも多い。失敗を怖れず、自分の価値を高める努力を怠らないで欲しい。

ここまでは、成功者から20代の優等生への「助言」。それでは、英語はキライ、理系はダメ、IT機器はスマホどまり、歴史や地理は苦手ならどうするか。

心配しないでよい。神さまは君にも何かできることを与えてくれている。好きなこと、得意なことを探すことだ。今はダメでも学び直して根気よく挑戦すれば必ずできることが見つかるだろう。そう案じたことでもあるまい。

今春、社会人になる諸君、人生100年時代の「土台作りの20代」を無駄にしないで欲しい。これは高齢者世代からの切実なお願いだ。

## 2018.2.24 今日の日経歌壇から

語彙一つ探しあぐねて鉛筆を立てて倒して少し転がす

(館林 本川みや子) 選者：三枝昂之

選者評：立てて倒して転がす動作が手さぐりの創作現場を生かして見事。

⇒文章を書く時に利用する語彙は、そのほとんどが以前から

使いなれているものだが、これは過去の読書量を反映しており、適切な語彙やフレーズが思い浮かばず貧困な語彙数(ボキャ貧)にがっかりすることは多い。従って⇒(矢印)以下の文章や文末のまとめには「語彙一つ探しあぐねる」ことは多い。

それでも、この歌の作者のように手さぐりで「語彙一つ探しあぐねて鉛筆を立てて倒して少し転がす」七転八倒の努力をすることはしない。思いついた語彙の正しい使い方に自信がない時はネットで調べる。

それ以外にブログを書く時に留意していることは、句読点の付け方だが、これは特に決まった型がなく難しい。もう1つは、⇒以下に書く一区切りの文章(パラグラフ paragraph: 意句点によって分けられた一続きの短い文章)はできるだけ短くすることを心がけている。

これは朝日の論説委員2名の天声人語子による看板コラム、「天声人語」が総文字数603字、6段落、従って、一区切りの文章の文字数は100字程度であることを見做うように留意しているからだ。ただ、私には、意見や所感の全体を600字程度に短くまとめることは難しく、2倍の1,200字程度を目標にしている。

文末のまとめは難しい。新聞の署名入り囲み記事を丹念に読み、「なるほど、そうなのか」とうならせる「まとめ」の文章が書けるようになりたいものだ。

## 2018.2.26 今日の朝日歌壇から

三万人切りし市勢の街なかに入居者募集の幟増えゆく

(角田市 藤原 忠) 選者：高野公彦

選者評：人口減で空き家が増える一方、新築のマンションが増える矛盾。

⇒この歌にある「市勢」は、市の人口、経済、産業、財政、資源などの全体像からイメージされるが、近年、人口減少により地方都市の「街なか」に空き家が増えている。

戦前から戦後まで続く数少ない駅前<sup>しも</sup>の商店街ですら、「仕舞た屋」風のシャッター街になり昼間は人気がない。子や孫は都会に住み、老夫婦世帯か老人の1人世帯が多い。高度成長期に街にできた郊外の大規模ショッピングセンターでも顧客はまばら。この二つだけでも「市勢」の劣化を感じる。

ところが、近郊都市に通じる電車、バス、高速道、基幹道の交通の要所や交通至便地には、ハウスメーカーが、続々とマンションを建てて「入居者募集」の幟を立てている。分譲マンションは少なく賃貸マンションがほとんどだが、建築と同時に満室になる。

これらの地域では、賃貸マンションばかりか、戸建て住宅の新築も増えている。建売住宅よりも注文住宅が多く建築と同時に居住が始まる。

この新築マンションや戸建て住宅にどのような人が居住しているのだろうか。マンションには外国人労働者が多く、戸建て住宅には、元は地域内の交通不便の山間地区からの若い家庭持ちの人が多い。

評者は、「人口減で空き家が増える一方、新築のマンションが増える」ことを矛盾と言っているが、そうではなくこれは合理的なのだ。

外国人労働者は、永住することの少ない一時的住民だから自己所有住宅を求めない。外国人労働者を雇用する企業が一括借り上げすることもある。この目的のマンションはまだまだ需要が多いそうだ。

交通不便の山間地区からの住民は、本当の気持ちは親がいる生まれ故郷の田舎の自宅に戻りたいが、自宅からは勤務先に通勤できない。それで、Jターンして途中の交通至便地まで戻る、これなら勤務継続可能で、ときどき親の里にも帰ることができる。

一般的に市勢を決める一番の要因は人口と考えられ易いが、現実の人口は市勢規模の結果であって、経済、産業、資源（自然、気候、風土、面積、インフラ、人情）を含む全要素が充実して初めて増えるのだ。

「人口の東京一極集中」だけに地方衰退の解を求めているは、「三万人切りし市勢の街なかに入居者募集の幟増えゆく」現象の真の意味理解はできない。

ただ中心から遠く離れて位置している「端っこ」が理由で消えてなくなることはない。端っこの街の勢いを維持するために頑張っている地方の若者も多い。北播磨地域地方創生の重要な課題だ。

## 2018.3.10 今日の日経歌壇から

近況に病ばなしは除外せよ司会釘さす同窓の会

(十日町 高原真) 選者：三枝昴之 選者評：なし

⇒後期高齢者になっても、3年ごとに中学と高校の同窓会。毎年1回、少数で集まる大学のゼミの同窓会。それ以外にも不定期に同窓会もどきの会合も多い。幹事は持ち回りだが、私はすでに義務的幹事はすませているので、最近はお世話になる一方だ。

同年代の同郷の友や、年代は異なるが同窓のよしみを縁にする知り合いの顔を見て、近況を聞くのは楽しい。

ところが、順に指名された時の「何かひとこと」に気を遣う。一番多いのがこの歌の作者のいう（健康法の話も含めて）病気の話。本人は「自分は病気の王様、でもこんなに元気になりました」とうれしいのだが、聴いている人には自慢しているようでツマラナイ。病院通いの回数や投薬の話も同じ。

お互いの歩く姿や頭髮をみて、同窓の老い具合・健康状態を自分と較べ安心と安らぎを求める輩もいるが、「みんな同じだ」「これからは、何があってもおかしくない」と黙って無難に収めたい。

自分の加齢や体力的な衰えは疑いない現実だし、それほど気にならないが、病気の話はうっとうしいことが多い。「みな同じように、老いるのだ」という幹事の解説に何の面白味があるわけでもない。

仕事の話は、同年代のサラリーマンだと就職時期が同じなので、就職先、勤務地やポストが気になる。自営業はお互いの繁盛ぶりが気になる。

集まって話をする友や同窓の現況報告にも気遣いが必要だ。子どもがいるのか、いないのか。結婚しているのか、未婚なのか。孫は何人でどうしているのか…こんな他愛ない世間話も相手や話題の出し方を選ばないと嫌われる。特に宗教や政治の話は鬼門。ふさわしいとは思えない。

参加者が興味を持って聞いてくれて、会場が盛り上がり、自慢話にならず、意見や主義主張の対立を招かない話題というのは難しい。

来週に行われる関学の小野加東支部同窓会で何を話そうかと今から考えている。

## 2018.3.21 大学同窓会

今日は小野商工会議所3階で、久しぶりに開催された関西学院同窓会・小野加東支部総会に出席した。

総会に先立ち、大先輩の土肥芳郎会員による講演「不世出の作曲家 山田耕筰」―関西学院グリークラブとの係わりの中で一を拝聴した。

土肥芳郎先輩は「関西学院グリークラブ昭和35年卒」を自称され、卒業後もグリークラブの支援と発展に尽くされている。

明治22（1889）年アメリカ南メソジスト監督協会のW.R.ランバスら3人により、麻耶山麓・原田の森のほとり、現在の王子公園近くに関西学院が発祥したことから、関学グリークラブの発足、山田耕筰の入部と学院生活に触れた。

昭和4（1929）年関西学院は、西宮市上ヶ原に移転した後の北原白秋作詞、山田耕筰作曲の関西学院校歌「空の翼」ができるまでの秘話や、スクールモットー「Mastery for service」について改めて関学の歴史を知ることができた。

総会には関学同窓会から辰馬副会長が来賓として出席、最近の同窓会事情をお聞きした。同窓会事務局からは大学の近況報告が行われた。

食事をしながら、地域に住む同窓との歓談や近況報告にしばし時間をわすれ至福の時を過ごした。高齢会員は10歳上の近都先輩、5歳上の土肥先輩、そして私の順。指名されて行った締めくくりの挨拶では、来賓と若い同窓のお世話に感謝した。

## 2018.3.28 ロータリークラブの卓話レジメ

・はじめに一私の奉仕活動

クラブ奉仕：週報、記念誌、ホームページの作成



国際奉仕：R財団奨学生 米山奨学生との係わり

職業奉仕：滝野町、加東市代表監査委員 滝野町、加東市社会福祉協議会監事 丹波ひかみ農協員外監事 など会計・監査の仕事

社会奉仕：クラブから砂漠緑化運動を提案、その広報活動

その他：「ロータリーの友」「英文ロータリーの友」「THE ROTARIAN」投稿

・まとめ：ロータリークラブに入って経験できたことに感謝資料（私の投稿文）

### 1. ロータリーの友

勇気を出して話すことの大切さ 30年4月号

私とポリオ 29年2月号

地方自治体の監査 25年12月号

ロータリーの夢実現に向けて提案 12年2月号

地球の危機を救おう 11年1月号

### 2. THE ROTARIAN

Let's turn deserts into forest 1998 (10) OCTOBER

### 3. THE ROTARY-NO-TOMO

Let's all Rotarian all over the world save the globe 1998 (10) WINTER

## 2018.3.29 ロータリーの職業奉仕

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的に奨励する4つの項目の第2は「職業上の高い倫理観を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること」にある。

ロータリーの目的に基づく奉仕部門は、ロータリークラブの活動の精神的な礎であり、クラブ活動がよりどころとする基礎。その第2の職業奉仕は「ロータリアンが自らの職業を通じて人々に奉仕し、高い道德水準を実践すること」を奨励している（クラブ定款等参照）。

昨日の卓話で詳しく触れることができなかった「職業奉仕」について私の会長年度の「会長の時間」（1998/10/28）から抜粋する。

10月は職業奉仕月間です。既に職業奉仕のフォーラムを実施してその理解を深めましたが、それらを総括して私の所感を申し述べたいと思います。

ロータリーの職業奉仕を一言でいいますと「職業を通じて社会に奉仕する」ということになるでしょう。それでは職業奉仕と言う職業とは一体何を指しているのでしょうか。

広辞苑（第4版）によれば職業とは「日常従事する業務、生計を立てるための仕事、生業」となっています。これでは奉仕という概念と抱き合わせて解釈するには少し無理があるように思います。

一般的に英語で職業を表す言葉は、第一にオキュペーション（occupation）という言葉を用います。これは occupy 占領するという意味からきた言葉です。つまり1日24時間のうち8時間を職業に占領されているという訳です。

ビジネス（business）という言葉は busy 忙しいという意味からきた言葉です。せっせせっせと忙しく走りまわるといわけです。

プロフェッション（profession）は profess 主張するという言葉からきた言葉です。頭脳を用いる仕事、専門的技術職を言い

ます。

ロータリーの会員には business and professional person（事業と専門職務に携わる人）が入会しています。

ロータリーでは職業という意味にボケイション（vocation）という言葉を用いています。これは天職という意味です。

このほか、コーリング（calling）という言葉もあります。これも天職や神様のお召しを意味しますが、もともと王の命令によって従事させられる職業を言います。

ワーク（work）という言葉もあります。働くこと、主に肉体労働を言います。

トレード（trade）という言葉もあります。普通、貿易という意味に使われていますが、手職業や手仕事を指しています。

以上のように英語で職業を指す言葉はたくさんありますが、ロータリーでは、職業奉仕のことを Vocational Serviceと言います。つまり、自分の職業を神様の声、天職と心得て、奉仕しよう。更にもっと言えば、良質の職業人目指してお互いに切磋琢磨して職業に打ち込む、金儲けも名声ではなくひたすらに自分の vocation に打ち込む、これがロータリーの職業奉仕なのです。このためにロータリアンは業界の第一人者になろうと心掛けなければなりませんし、進んで業界の役職をも引き受けなければなりません。

このように理解しますとロータリーの職業奉仕も大変分かりやすいのですが、これを定義や理念として捉えようとすると実に難解であります。

私がロータリークラブで学んだことで一番印象に残っていることは「職業奉仕」という奉仕活動です。

余事ながら、ロータリーの職業奉仕は「関西学院のモットー

『Mastery for service』に通じるところがある」と一人合点しています。

### 2018.3.31 2045年推計人口 今日の日経、朝日から

厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所は30日、2045年までの地域別の将来推計人口を公表した。全ての都道府県で30年から人口が減り始め、45年には7割の市区町村で15年に比べ人口が20%以上減る。都市部への人口一極集中も加速しつつあり、インフラなどの面で都市部の経済効率は上がる半面、高齢化に伴う様々な問題が深刻さを増してくる（日経）。

2045年に43道府県で75歳以上の人口が20%を超えるとする推計を、国立社会保障・人口問題研究所が30日に公表した。医療や介護サービスをより多く必要とする世代の割合が全国で高まる。一方、14歳以下の割合は全都道府県で低下する見通しだ（朝日）。

⇒地域別将来推計人口は5年ごとに同研究所がまとめているもので、結果にそれほどの驚きはない。兵庫県の推計人口は、毎月各市町から住民基本台帳法に基づく当該月間の移動数の報告を受け集計したものを県民局別に作成されており、県のホームページに記載されている。

最新の将来推計から市町別総人口の2010年対2040年比は以下の通りだ（カッコ内は対10年比）。

西脇市	4万3,000人	→3万2,000人	(74.6%)
三木市	8万1,000人	→5万7,000人	(70.1%)
小野市	5万人	→4万3,000人	(86.1%)
加西市	4万8,000人	→3万5,000人	(72.8%)
加東市	4万人	→3万6,000人	(88.7%)

多可町 2万3,000人 →1万5,000人 (67.1%)

北播磨 28万5,000人 →21万7,000人 (76.3%)

私の関心は、0～14歳人口（年少人口）、15～64歳人口（生産年齢人口）、65歳～（高齢人口）人口の推移とその構成比だが、容易に見出すことはできない。ただ推定されることは「高齢化の進展と年少人口の減少」の確認以外の成果はないだろう。

・「おばあさんの時代」がやってくる。現在、65歳以上の高齢女性は全人口の15%程度。2050年には21%を占める。21世紀半ばには、5人に1人がおばあさんなのだ（日経2018/3/30から）。

⇒平均寿命は女性の方が長いので、この推計結果に驚くこともないが、人口減少と高齢化で、見えてくる将来風景は、子どもが少なくなり、高齢者が増え、100歳以上高齢者の「おばあさん」が増える。こんな国になるのだ。ただ、この変化は地域ごとに大きく異なるのだが、日本全体で考えるとゼロサムゲーム。

国民個人レベルの教育、職業、就労、生活の変化と国レベルの政治、経済、社会の変化を考え、さらに長寿のリスクを考えるとぞっとする。情緒的で論理的ではないが、日本は人類未体験の変化の一番乗りをしているように思える。

#### 2018.4.9 勇気を出して話すことの大切さ

国際ロータリークラブの公式機関紙「ロータリーの友 2018年4月号の特集「メイクアップのすすめ」から。

1982年6月、小野RC（ロータリークラブ）入会后、何度も世界大会や海外旅行に出かけています。記憶に残った海外2つの海外メーキャップを紹介しましょう。

1つ目は初めて海外クラブでメーキャップした時のこと。古くからの友人が、サンフランシスコ州立大学に留学していたた

め、2人で西海岸の都市を旅行しようということになり、年末から年始にかけ2週間旅行しました。

その際、世界で2番目に誕生したサンフランシスコロータリークラブの例会に出席しバナーを交換しました。

会場は大きなホテルの宴会場で、ここはパーティ会場かと思わせるにぎわい。ビジター紹介の後、「日本語の話せる方はいますか？」と英語で呼びかけてみましたが、会場はシーン。

例会終了後に加州住友銀行サンフランシスコ支店長の会員が私の席に来られ、名刺交換をして安堵。しばし歓談をしました。初めての海外クラブは何もかも緊張の連続でした。1983年のことです。

2つ目は2003年、友人夫婦らと共にロシアに旅行した際、サンクトペテルブルク・ネバロータリークラブを訪れた時のこと。私は紹介されて英語でスピーチしました。

ここはロシア、何でも喋ろうと勇氣百倍「私のポリオ体験とポリオ撲滅」をベースにあらかじめ準備した原稿でスピーチしました。日本ではこんな話はしたことはありません。驚いたことには直前会長で当時、サンクトペテルブルク大学准教授のイリナ・リブシーさんが一区切りごとにロシア語に通訳。おかげで大きな拍手をもらい、本当に嬉しかった。

私の海外メーキャップ体験は全て楽しい思い出です（西村勝彦 第2680地区 兵庫県）。



#### 2018.4.17 私の期待 ロータリーの友、平成25年12月号から

地方自治体の監査委員は、自治体の監査を通して、自治体のマネジメント（経営、管理）とガバナンス（統治、監視）のあり方に影響を及ぼしている。

私は、地元加東市の代表監査委員を務めているが、前年の決算審査講評において、自治体のマネジメントについて、「業務の有効性と効率性（最少経費で最大の効果）」を目的として、首長が組織マネジメントである内部統制を構築することが大切である。略

⇒私が加東市代表監査委員退任前の3年間に述べた監査講評の主な項目は、24年度決算審査では、上記の通り、①自治体マネジメント ②自治体ガバナンス（25年8月）。

23年度決算審査では、①自治体の内部統制（Internal control）②コンプライアンス（Compliance）③ディスクロージャー（Disclosure）（24年8月）。

22年度決算審査では、①職員研修（Education）②ファシリティ・マネジメント（Facility）③パブリシティ・マネジメント（Publicity）（23年8月）であった。

・今後とも引き続き、自主財源の確保と、施策の「選択と集中」により、公共施設マネジメントの推進、諸経費の節減、行政の簡素化と効率化に努められたい。

・最後に、信頼性の高い市の行財政運営を推進するために、業務の有効性と効率性を図ることを目的として内部統制を構築し、さらに自治体ガバナンスを可能とする関連法規の整備運用と徹底遵守により効率的でよい統治を目指されることを期待する。かくて私の暑い夏は終わった（西村勝彦・小野加東ロータリークラブ）。

⇒今から読み直してみても、私の主張は退任前の3年間で言い尽くした感がする。退任後これらの主張を敷衍して、積極的かつ具体的に意見を述べる機会はなかった。ただ、安倍内閣による地方創生事業の推進により「自治体マネジメント」つまり「行政経営City Management」がより一層重要になったと独り言ちながら、理解が進むことを期待している。

行政に必要な手堅い行政実務の遂行は、今や当たり前のことであり、望むべきは、将来の少子高齢・人口減少を見据え「消滅しない地方・繁栄が期待される地方」の将来計画の展望とその実行だ。

本年から地方自治体の会計の複式簿記化で自治体の財政状態と経営成績が今まで以上に透明になり、自治体間の比較やランキングが進む。

地方自治体の首長と議会に期待されていることは、行政経営City Managementへのさらなる関心と英知ではないだろうか。

#### 2018.4.30 ゴールデンウィーク

今年のゴールデンウィークは、前半が4月28日から3日間、後半が5月3日から4日間の（離れ）連休になる。すべての休暇を自宅や事務所で過ごすのは何とも情けない。

そこで、今日は朝から「思い付き」で家内と2人、私の運転で丹波路をドライブすることに決め10時半ごろ自宅を出発した。

往路は、国道372号線から篠山市今田町上立杭の丹波伝統工芸公園「陶の郷」へ。丹波立杭焼は日本六古窯の一つで篠山市観光の拠点施設。陶器づくり体験はできなかったが、多くの丹波立杭焼の作品を見ることができた。ここで地域色ゆたかな地元料理の昼食。



次は篠山城址へ。篠山城は、徳川家康によって豊臣氏を包囲する城の1つとして、山陰道の要衝に築かれた。最後の城主は青山家6代目、明治まで続いたとたった1人の同乗者である家内に説明した。桜はすでに見ごろが過ぎていたが多くの観光客のため、車いすを降ろすことなく篠山城下町の情緒を楽しみながらゆっくりドライブ。

ここに友人の長男がいることを思い出した。うろ覚えの店名を目安にゆっくりドライブ、河原町商店街・中央部に「器とくらしの道具屋ハクト屋」を探し当てた。駐車場で車いすを降ろし、お店まで伺い観光客でごった返す中で、しばし歓談した。

帰路は、国道175号線を通り帰宅した。途中で、「道の駅 丹波おばあちゃんの里」で休憩、コーヒータイムを楽しんで5時前に無事帰宅した。久方ぶりの走行距離105キロメートルのドライブだった。

こんなドライブがいつまでできるのか、阪神間に住む子どもや孫の運動会や発表会にも参加してやれず、本当に申し訳ないが、あれが最後だったと後悔しないために、ドライブのできる間にもっと、もっと、もっと…。「気づきもせずにくつもの最後を通過しておきたい」。

### 2018.5.13 新聞歌壇から

栄光と言われるほどの過去も無く目立たぬ社員のままで定年  
(清瀬 峠谷清広) 選者：三枝昂之  
選者評：大半の働きびとの軌跡だが目に見える栄光はなくともお天道さまはみていたはず(日経歌壇5/12から)。

⇒後期高齢者の年齢になると、不思議と過去のことが思い出される。この歌の作者同様に「目立たぬ社員のままで定年」を

迎えた中・高・大学の同級、同窓生が圧倒的に多い。中には若くして病気で亡くなった友人もいるが、彼らもサラリーマンのよき働き人であった。

父がいて、母がいて、配偶者がいて、子がいて、孫がいる。こんな「ふつうが一番」。でもそれがむずかしい。普通に生き、平凡でいい、ひたむきに生きることが大切なのだろう。

でも、まったく努力しなかったから普通であった訳ではない。普通の努力が今の幸せを与えてくれたのだ。お天道さまはしっかりみていてくれたのだ。

栄光と言われるほどの過去などどこにもないが、大勢の周りのよき理解者に恵まれ今日までよき生涯を送ってきたことに感謝している。

七十歳わたしの脳内休耕地仏語講座のテキストひらく

(町田市 山田道子) 選者：高野公彦

選者評：老いの入り口で積極的に生きる作者(朝日歌壇5/13から)。

⇒70歳になっても、なお脳内に未利用の休耕地があるとはすばらしい。この頃から妙に病気やケガなど本意なことが起きる。これが脳内の未利用の休耕地を荒地にするのだ。

作者はむかし習った仏語講座のテキストを開いている。現在の私には英文解釈や英会話のテキストを開いて「学びなおし」をする気力はない。

毎日ブログを書いている。日経、朝日などの新聞記事や社説からテーマを選ぶ。識者、賢者、知者のご意見や新聞短歌を「まくら」に所感を書く。書き初めてから6年目になる。従ってわたしの脳内に休耕地はない。喜寿 わたしの脳内休耕地、ブログ書くため 毎日 新聞 ネットひらく



## 2018.6.1 逆参勤交代の勧め 今日の日経から

期間限定で都市部から地方に移り、テレワークを体験してみる――。勤め先を変えずに都市と地方を行き来する「逆参勤交代構想」を推進する動きが出てきた。「働き方改革と地方創生を同時に実現できる」と提案する三菱総合研究所の松田智生首席研究員に、背景を聞いた。

⇒都市から地方へ、期間限定で遠隔勤務を進め、「地域に関心を持ってより緩やかな形で『関係人口』を増やそう」という発想だ。

・「都市部の社員が1カ月から1年程度の期間限定で、地方の拠点に交代で移って遠隔勤務してみる試みだ。会社が指名するほか、転勤と違って自発的に選ぶこともできる。本業だけでなく、週に数日は地域活動にも携わる形を想定する。

⇒「逆参勤交代」が実現すると、社員本人は通勤に費やす時間やストレスが減り、ゆとりを持てる環境で仕事に集中でき、育児や介護との両立も考えやすいので「仕事と生活の両立、心身のリフレッシュ、働く意欲向上、セカンドキャリアが得られる」利点がある。

地方は逆参勤交代が広がればテレワーク可能なサテライトオフィスや住宅などの投資が地方で増え、滞在中の社員は生活や余暇のために消費もする。週に数日は地域のために働けば、地域活動の担い手確保、関係人口増加、消費拡大の効果がある。

企業だけ考えると、人事制度上どう位置付けるか、行き先をどう選ぶか、地方への拠点開設や社員の移動交通費を誰が負担するかなど様々な論点が浮かぶが成功すれば、働き方改革、人材育成、社員の健康増進、新ビジネス発掘の効果が、「逆参勤交代」で「三方一両得」が可能になる。

今後、逆参勤交代を拡大するため、「まずは企業や自治体と協力した3泊4日のトライアル事業を7～9月に展開する。地域活動も併せて体験してもらう」ことから始める準備をすでに進めている八幡平市などの実例がある。

平成の合併でできた合併市町では、使わなくなった庁舎や公共施設を企業に貸し出し、ネット事業者を誘致することを提案したい。これらの施設では、もともとネット・通信環境が整備されており、アンテナ等の設備等多額の投資を行わなくても高度通信技術が利用可能だ。企業にも自治体にも利点がある。

高校卒業と同時に大学等の高等教育を目指して都会に出て行った地域の若者に「逆参勤交代で一時帰郷」して、その配偶者や子に地域を知ってもらい、その後、地方に居住するもよし、定年後に戻るもよし。

・逆参勤交代が定着すれば、ライフステージに合わせて自発的に勤務地を選べるかもしれない。地域活動に積極的に関わることも転勤と違う点。賛否両論ありそうだが、働き方改革や地方創生、人口減少などの課題への危機感は理解できる人が多いだろう。

⇒「逆参勤交代という言葉自体は解剖学者の養老孟司氏ら多くの人が口にしてきた。社員、企業、地方それぞれにメリットがあると感じ、2017年7月ごろから導入を呼びかけ始めた」という。

私には新鮮だ。なぜ、今までこんな発想が地方から出なかったのだろうか。今でも情報と発想・着想のお殿様は都会に住んでいるからだろうか。そうでもないだろう。逆参勤交代で田舎に行こう。

### 2018.6.3 今日の朝日歌壇から

帰るなら来るなど言いし亡き父の寂しさを知る

(横浜市 宮本真基子) 選者：永田和弘、馬場あき子

永田和弘評：連休明けには子供らがいっせいに帰り、あの頃の父の寂しさを実感できる年齢に。

馬場あき子評：亡き父の老いの孤独をかみしめる作者も老いに向かうか。

⇒後期高齢者になると、都会に出ていった子や孫が、連休、学校の休み、お盆や正月になると配偶者とともに順次里に帰って来る。何日も前から帰ってくる日を楽しみにして待つ。

父親は受け入れ準備にまるで無頓着だが、母親は3度の食事から、寝具干しから、孫の遊具の準備から、配偶者の親元に持たせるおみやげまで準備が大変だ。

父親は「帰るなら来るな」と寂しい。母親は「早く来い来い、早う帰れ」で やれやれ、2人そろって「次は…だなあ」。

五月病かかる間もないスケジュールコンパサークルバイト学祭  
(東大阪市 大野聖子) 選者：高野公彦

選者評：ユーモア漂う若々しい歌。

⇒苦しかった大学受験と入試を経て、ようやく解放され希望で迎えた入学式、下宿生なら一人暮らしが始まる。友だちはまだいない。この新しい環境への期待と不安でいっぱい。

新入生の中には5月の連休後になると憂鬱になる、なんとなく体調が悪い、学校に行きたくないなどの軽いうつ的な気分に見舞われる症状が出ることもある。これを五月病というようだ。

ところが、大学生になると(義務的に)授業に出席すること以外に、クラブや同好会、サークルに入ると歓迎コンパが始まる。

最近では、入学したその日からアルバイトに行く学生もいるらしい。彼らは五月病にかかる間もないのだ。

私が大学に入学したのは、半世紀以上前のことだが、入学後、さっそく会計研究会に入り、先輩から簿記の手ほどきを受けた。土日や休暇前になると、阪急三番街から梅田界限、心斎橋・難波界限までコンパに参加した。価格の安い焼肉屋で、初めてビールを飲んだ。マTONもビールも何もかも新鮮であった。

西宮市上ヶ原の学生下宿からバス、電車、地下鉄に乗り、梅田から難波まで誘われる会合は、ほとんど参加した。

卒業後は豊中市曾根の文化アパートに移り、駅前の居酒屋でビールを飲んだ。若い時の10年 思い出すと楽しいことばかりだ。

五月病かかる間もない コンパ 研究会 旅行 バイトも学祭も関係なし。

### 2018.6.16 今日の日経歌壇から

四月のプール五月のプール六月のプールだんだん青くなって  
く (山形 うにがわえりも) 選者：穂村 弘

選者評：季節感の表現がユニーク。「四月のプール」の初句七音から始まって、きっちり定型に収まるリズムもよい。

⇒加東市上三草、三草山の山麓の南にある高室池の湖畔に、昭和45年に設立された社モーターボート会館(現在の高室池スポーツクラブ)の施設がある。50メートルの室内温水プール、フィットネスジム、サウナ、ジャクジー、体育館、研修宿泊施設などが整備され営業している。

平成17年4月から今日まで、このプールの「遊泳会員」になっている。高齢者になって、大病をして歩行困難になり、それでも「もう少し海外旅行したい」と欲張った動機から始めた。

初めは水中歩行もできず、すぐにやめたくなった。それでもプール管理員さんに励まされ、あらゆる補助具を使って練習、次は息継ぎの練習、すべて自己流だ。

近年は毎週3～4回上級者や競泳者がいない昼の1時間を初級者レーン」で水中歩行と自己流クロールとジャクジーで過ごす。怪我や事故は起こしたことはないが、階段も床タイルの上も危険なので毎回家内同伴だ。

腰痛、膝痛、肩痛などに悩む人から、パーキンソン病、脳梗塞後遺症まで多くの会員が頑張っている。いくらプールで頑張ってもこれらの病気が治癒することはないが進行を遅らせてくれると納得して水中歩行とスイミングを続けている。

高室池スポーツクラブのプールの会員制度は来年3月で終了することになった。私が唯一利用できるスポーツ施設であっただけに残念だ。

## 2018.6.23 今日の日経歌壇から

四つ折りの日経を社内に読み耽る営業課長のけふの始まり

(東京 上田国博) 選者：三枝昂之

選者評：四つ折りにして読み耽る。早くも会社人間モード全開。さすが課長と脱帽。

⇒私の父は、昭和8年1月、陸軍現役志願兵として39連隊に入営勤務(後に33連隊に転属)、昭和20年12月、陸軍歩兵中尉で退役、翌年、元の勤務先の神戸銀行に就職した。神戸銀行定年退職後は、地元の信用組合支店長2店舗12年間勤めて66歳で退職。昭和59年1月、69歳で亡くなった。

父は就職の日から「会社人間になりたくて？」安月給で生活も大変であった時から朝日と日経の2紙を購読していた。従っ

て、私は小さい時から新聞が身近にあった。

私が、自分から新聞読みを始めたのは高校生になってからだろうが、大学時代は日経1紙。就職してからも日経を購読、28歳に郷里に帰ってきてからは、朝日、日経の2紙を購読している。最近は2紙ともネット版も合わせて購読している。日刊各社の社説や神戸新聞はネットの配信記事を読む。

最近は新聞を読まない人が増え、新聞は衰退の一途をたどっている。その背景には、ITやSNSの普及で新聞の購読が減少していることに加え、新聞に対する信頼感の喪失があるように思える。その他、テレビ欄もスポーツ欄も見る機会が減少している。孫の世代は高校生になっても新聞に興味がない。

朝は朝食前に、昼間は事務所で新聞各紙の社説やオピニオンなどをネットで読む。これは原則無料なのだ。夜はベッドで2時間、朝に読み切れなかった記事などを「四つ折り」にして丹念に読む。

2012年12月、第2次安倍内閣発足後、「アベノミクス」に興味があり、新聞読みから「ブログ書き」に転じて、毎日1,200字程度の新聞ブログを書いている。日経、朝日の経済記事やオピニオン、さらに署名入り囲い込み記事を中心に所感などを書いている。

ただ、最近は新聞が面白くない。理由は「モリカケ」問題から国会空転、アメリカ・ファーストのトランプ政権、北朝鮮の非核化と紙面は変わるが、次元が低く？それほど関心もなく、面白くもない。ブログの主たるテーマにしている「アベノミクスの軌跡」もこれ以上の進展が見込めない。

ブログのもう一つのテーマである「日々話題」では、身近な北播磨の「地方創生」や新聞の「短歌評や生活雑感」で毎日

ブログを続けている。「いいね」サインやご意見を励みに続けているが、私のブログも終焉の時を迎えているのかもしれない。「四つ折りの日経を寝床で読み耽る新聞読みのけふの終わり」

## 2018.7.28 今日の日経歌壇から

内定にフライングしてルールなど構わず始まる新社会人

(東京 野上 卓) 選者：三枝昂之

選者評：選考開始前に内定続々。企業にも就活生にも切実な事情はあるだろうが、ルール無視からスタートする新社会人への危惧を込めた「フライング」が効果的。こうした土壌が昨今の政治家や官僚の振る舞いを生んだとも思わせる。

⇒大学、短期大学及び高等専門学校卒業・修了予定者の就職活動については、日本経済団体連合会が「採用選考に関する指針」を定め、大学等（就職問題懇談会）が「申合せ」を定め、双方がこれを遵守することとなっている。

その具体的内容は、①広報活動については、卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降に開始すること。②採用選考活動は卒業・修了年度の6月1日以降に開始すること。③正式な内定日は卒業・修了年度の10月1日以降とすることなどが定められている。

従って、内定日は10月1日以降だ。「内々定」なる通知が（メールで）頻発されている。

作者はこれを競走・競泳競技などで、スタートの号砲前に飛び出す不正出発を指す「フライング」であり、社会人の始まりからルール無視だと自覚している。

評者はこれを「昨今の政治家や官僚の振る舞い」に結びつけ「うっぶん晴らし」をしている。

バブル崩壊後の1993～2005（平5～平17）年頃に就職時期を迎えた後期高齢者の子どもの世代は、就職難のため「就職氷河期」と呼ばれ、私たちの子どもは在阪企業に就職するため、新調した就活スーツで梅田から淀屋橋、本町、心斎橋、難波に至るまで毎日、毎日採用試験をはしごした。

現在はこの世代とは様変わりの人手不足、企業も学生も楽々と就職が決まり「内々定カード」が貯まっていく。さらに大学入試まで易しくなっている。

新社会人になる諸君。大学入試が易しくなり、容易に希望の大学に入学、就職が容易に決まったから「生涯幸せ」ということではない。

勉強もせず、苦勞もせず、ハッピーな人生などない。「フライングしてルールなど構わず始まる人生」に安住しないでほしい。君たちの老後は苦勞が待っているかも。それが心配だ。

## 2018.8.13 朝日歌壇から 朝日8/12

住職をわれに譲りて口出しをせざりし父にも不満ありけむ

(三原市 岡田独甫) 選者：永田和弘

選者評：「父にも」の「も」は取りも直さず現在の自分を歌っているであろう。

⇒私は10年間の都会生活を経て28歳になって郷里に戻り、自宅で（当時の父の仕事・信用組合支店長とは全く異なる）税理士事務所を開業した。父から譲られた事業ではないが、父は私の仕事について一切かまわず、いつも「還暦を過ぎたことだし、老いては子に従えですよ」と言っていたと父の没後、多くの知人から聞いた。

「老いては子に従え」は「江戸いろはかるた」の一つで、三



従（幼少時は父兄に、結婚したら夫に、夫の死後は子に従うこと）の一つで、仏教や儒教の教えとして女性が守るべきものとされていた。

現在では男女関係なく、老人のあり方を言っている。ただ、老人はどんなときでも子の世代に従うべきだ、という意味ではないようだ。

※英文に直訳すればWhen old, obey your children.あるいはBe guided by your children when you are old.になるだろう（故事ことわざ辞典）。

私は、還暦を過ぎた頃から大病を重ね、齢すでに後期高齢者になり、税理士事務所の主宰は実質的に長女で税理士の香村明子に譲っている。作者の父同様に不満もあるが、それはできるだけ言わないことにして父の教えを守っている。

ところで、近年、中小企業経営者の高齢化が進み、今後数年で、多くの中小企業が事業承継のタイミングを迎える。企業に蓄積されたノウハウや技術といった価値を次世代に受け継ぎ、世代交代によるさらなる活性化を実現していくために、中小企業・小規模経営者は一体何歳くらいで子らへの事業承継を考えるべきだろうか。

・野村総合研究所が2012年に行ったアンケートによると後継者が事業を承継するのに「ちょうどよき時期だった」と回答する現経営者の承継時の平均年齢は43.7歳だった。最近5年間の承継時平均年齢50.9歳に比べると7年早い。

それでは、経営者の平均引退年齢はどうかというと、小規模事業者で70.5歳、中規模事業者で67.7歳だった（中小企業白書2013 125～127ページ）。

⇒このアンケート結果からわかることは、40歳代で事業承継

を考えはじめ、遅くとも70歳で引退するのが平均的。事業承継のタイミングは個々の企業の状況等により異なるが、早い時期から考えておき、後継者の新たな挑戦「第2創業」を期待したい。

事業を子に譲りて口出しせざりし われにも不満なし 感謝する

## 2018.8.19 今日の朝日歌壇から

今少しスマホを止めて新聞を読めば変わるよ日本の政治

（赤穂市 堀百合子） 選者：高野公彦

スマートフォン持たぬ暮らしは文語体旧かなの歌で通すのに  
似る

（新座市 菊池良治） 選者：高野公彦

選者評：スマホの功罪を読んだもの。どちらの歌にも納得できる点がある。

⇒私は、2012年12月末から毎日、事務所のホームページなどにブログを書いている。翌年初めに抜粋・編集して「アベノミクスと日々の話題」として上梓、知人に差し上げている（原文は「西村勝彦会計事務所」で検索してください）。

・麻生太郎・副総理兼財務相は新潟県新発田市で講演し、自民党支持候補が勝利した6月10日の同県知事選を引き合いに、自民支持が高いのは10～30代として、「一番新聞を読まない世代だ。新聞読まない人は全部自民党なんだ」と持論を展開した（朝日6/24）。

⇒近年、特に若い世代の間では、スマホ、タブレット、パソコンなどデジタル機器による媒体の躍進に伴い、紙媒体としての新聞の相対的重要性が低下し、新聞の購読部数が著しく減少している。同時に、各種メディアがSNSを利用して伝える情



報の多様化が進み、内容の信用性が低下、報道機関の姿勢が問われている。

・8月16日、全米の300以上の新聞社がメディアを「国民の敵」と攻撃するトランプ米大統領を批判する社説を一斉に掲載した。トランプ氏は政権に批判的な報道を頻繁に「フェイク（偽）ニュース」と呼び、ジャーナリズムに対する国民の信頼を損なう言動を繰り返している。新聞社側が団結して、トランプ氏に反論した格好だ（日経8/17）。

⇒2016年の英国・EU離脱の是非を問う国民投票や米国・大統領選の投票では、SNSを通して多くのフェイクニュース（虚報）が拡散され、投票行動に大きな影響を与えたが、先日、麻生副総理が「新聞を読まないから自民党支持だ」と言ったのも、トランプ米大統領が自身に否定的な報道をフェイクニュースと呼んでいるのも俄かには理解し難い。

ただ「真実かどうか」を正しく判断し、手っ取り早く理解する方法などないのだから、普段から多数の紙媒体の書籍や新聞を読み、考える力を涵養しておくことが重要だ。

私がブログの最初に新聞等の記事の一部を引用するのは、出所を明らかにし、私見に客観性を持たせるためだが、ブログ書きもブログ読みも自分の意見を形成、その確認には有用だと自画自賛している。

今少しスマホを止めて新聞を読み考えれば分かるよ日本の政治

スマートフォン持たぬ暮らしは本読み新聞読みで通すのに似る

## 2018.8.26 今日の朝日歌壇から

二十歳から始めることやめること考えている猫をなでつつ

（富山市 松田梨子） 選者：馬場あき子、佐々木幸綱

馬場あき子評：作者はいつしか二十歳に。今後の進路を慎重に考えている様子が、猫とともに見えて楽しい。

佐々木幸綱評：何をはじめ何をやめるのか。読者の一人として気にかかるところ。

⇒最近の20歳の若者の多くは大学等の2年生、「したいことが満杯」の年齢だ。今から半世紀以上前になるが、私は毎年夏休みや冬休みになると親から小遣いをもらって、日本国中を旅行した。全部で100泊120日くらいになる。

大抵は学生の研究会メンバーやゼミ生と一緒に旅行したが、ひとりで九州一周をしたことを思い出す。この時は、特に行程を決めず、駅前の安い旅館に泊ったが、汽車の中で親しくなった他大学生と2人、鹿児島大学の学生寮に泊ったことも忘れられない。

若者が20歳から始めることは、「将来設計」の具体的検討だろう。20歳でやめることの代表は「悪い癖」だろう。人生でこんなに楽しい希望が一杯の年齢はない。

最近では、学校を休んで長期間、海外旅行をする若者も多い。「猫をなでて」考えている暇などどこにもない。若者は可能性を精いっぱい膨らませるのだ。

敗走を転進と呼ぶ戦ありきいま退学は進路変更

（朝霞市 青垣 進） 選者：佐々木幸綱

選者評：転進という語を久々に思い出した。

⇒第2次世界大戦で、日本軍は戦況が不利になって敵から逃げる敗走を転進と呼んでいた。撤退でも退却でもない戦闘能力

を次の戦地で活かすという意味で「転進」と呼んだらしい。

この歌の作者は、転進の意味を本来の意味で正しく使い「退学は進路変更」だという。一旦選んだ方向を変えて進むこと。進路を変えることだ。

作者の年齢が分からないが、若者の「転進」の最初は大学入試だろうか。医師や歯科医師になるのが第1希望であったが入試で不合格になり、他学部に進むケースなどがある。もちろん、浪人する方法もあるが2浪、3浪してもダメなこともある。

大学入学後、教養課程終了や卒業した後に受験が可能となる難関国家試験もダメなことがある。いつまでも受験を続けることをあきらめ「敗走」を決める悔しさは経験した者でないとわからない。

若者よ。転進するかどうかは君の自由だ。敗走などと呼ぶことはない、希望の出る若者を紹介しておこう。

ひとりは、都会の国立大学経済学部を卒業後、進路変更して地方の国立大学医学部に再入学、今は医療センターの勤務医。もうひとりは都会の国立大学外国語学部を卒業した後、進路変更して地元の私立大学薬学部<sup>に</sup>再入学、今は勤務薬剤師。敗走のリスクと伴走しながら頑張ったのはどちらも北播磨の女性だ。

若者よ。20歳から始めることは多い。転進と呼ぶ戦あり、敗走と呼ぶことはない。

## 2018.9.1 今日の日経歌壇から

満足気にはほほむ息子の顔見るとなりに写る美しき<sup>は</sup>たおやめ  
(大分 阿南尚子) 選者：三枝昴之

選者評：美しき<sup>は</sup>たおやめという表現が魅力を引き立て自慢げな息子の表情に納得。

⇒たおやめ(手弱女)は、たおやかな女、しなやかな女。ますらお(益荒男)・立派な男と対語になる(広辞苑7版)。選者が「美しき」の読み方に「(は)しき」とルビを付けた理由はよくわからないが、素直に「美しき」と理解した。

息子や娘、孫が20歳くらいの青年になると手弱女でなくとも「この子はいい子になってくれたなあ」とひとり自慢したくなる時がある。

満足気にはほほむ孫娘の顔見るとなりに写る美しきますらお  
忘れずに妻取替し夫婦箸十年毎の今年5回目

(東京 大熊信也) 選者：三枝昴之

選者評：長く連れ添う夫婦ならではの暮らしの細やかさ。

⇒夫婦箸は、子や孫から末長く一緒にいられますようにと感謝を込めて両親、義両親、祖父母に贈るもの。私の妻が夫婦箸を十年毎に取り替えてくれたようには思えない。

私は掃除、洗濯、料理など家事一切ができない。私に代わって、1人で何もかも行い、間もなく50年。結婚後すぐから60歳まで自営業の税理士事務所を手伝い、すべての家事に、育児に、仕事に関わってきてくれた。

・日本の夫婦における、夫と妻の雇用形態別の割合を見ると、実は、共働き夫婦の典型例とイメージされがちな「夫と妻ともに正規雇用の割合は全体の24.4%にとどまっている。一方、夫が正規雇用で妻が専業主婦などのケースが32.2%、夫が正規雇用で妻が非正規は27.3%と両方で全体の約6割を占める(共働き社会の必要条件 立命館大学教授・筒井淳也稿 日経ビジネス9/3から)。

私のように夫が自営業で、妻も自営業の補助者の割合は(妻が夫と別の自営業もあるので最大)3.6%。私には「家計を支え

てきたのは夫」だという認識が強く「妻に偏りがちな家事や育児負担の是正が求められている」という筆者の主張には程遠い生涯であった。今日まで不平・不満を言わず、家事・育児・仕事をこなし、私の不自由を援助してくれたことに感謝している。

忘れずに毎日妻取替しベッドシーツまもなく金婚式

## 2018.9.18 敬老の日

17日は「敬老の日」。多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し、その長寿を祝う趣旨で1966年に定められた。当初は9月15日に定められたが、2003（平成15）年より現行の9月の第3月曜日に変わった。

全国各地で敬老行事が行われたと思われるが、今日の新聞を見る限り、大臣談話もなく、特集記事もない。ただ、地方版に市内の長寿者を市長がお祝いのため訪問した記事が出ている。

兵庫県によると、15日時点で100歳以上の高齢者が2,849人いる。県内最高齢者は、女性が1907（明治40）年生まれの安川濱さん（111）宝塚市、男性は1910（明治43）年生まれの小島梅吉さん（108）南あわじ市（今日の朝日・はりま版から）。

地方自治体の首長が元気な超高齢者の長寿をお祝いするのはよいことだが、「敬老の日」の本来の主旨である「多年にわたり社会に尽くしてきた」老人を敬愛する行事があってもよい。なぜかこの日は、百寿だの市内最高齢が称賛されている。

昨日、夕食を終え、テレビを見ていたところ、近くに住む高校生の孫が突然やってきて「じいちゃん、ばあちゃん、敬老の日、おめでとう」と。

後は、久しぶりに孫の近況を聞きながらしばし歓談した。高齢期に入り、大病を繰り返しながら頑張っていることをしっか

り見ていてくれてうれしかった。

「敬老の日」のお祝いは、子や孫からいただくに限る。これからは、家内はもちろん、子や孫に迷惑をかけないように長生きしたい。

## 2018.9.22 今日の日経歌壇から

平成の最後を鮮明に思い出せるよう続く猛暑日

（平塚 風花 雫） 選者：三枝昂之

選者評：「平成最後の」という形容が昨今は目につくが愛惜路線ではなく最高気温を更新した耐えがたい夏。この選択がいい。他のプランは忘れられてもこれは最後まで残りそうな「最後の」では納得。

⇒今年の夏は本当に暑かった。平成最後の思い出にこの「猛暑日」を思い出すのは、作者、たぶん高齢者だけでもないだろう。

私が思い出すのはこの夏は地震、台風、高潮の災害が続いたことだ。北播磨の市町に住んでいると、幸せなことに、長く大災害とは無縁、テレビや防災無線にも慣れっこになって、住民も自治体も危機感が薄れている。普段からの防災と危機対応準備は重要だ。

土囊を積んでいた市町の隣で、特に何もなかった市町がある。これでよかったのだろうか。

ふるさとの投票権はないけれど畑にあれば手など振り合う

（横浜 大森正道） 選者：三枝昂之

選者評：向うには一票に見えるし、軽みを帯びたエールの味わい。

⇒北播磨の市町にも投票権のない住民が畑にいることが増え

ている。この地域で高校を卒業、その後、都会の大学等に進学、そのまま都会で就職、結婚、子育てをして、そのうち何人かは、定年後に住民票を移すこともなく日曜日にUターンして畑で野菜作りに励んでいる人たちだ。

候補者もこの人たちに選挙権ありと手など振る。よくある光景だ。これが日本全国各地で起こっている住民移動だ。市長選挙でも、市町議員選挙でも、候補者は市町内を一周してこの実態をしっかり見ておいてほしい。

### 2018.9.30 新聞歌壇から

女子学生亡国論が昔あり今は亡国病院論となる

(東京 黒崎康夫) 選者：三枝昂之 選者評：なし

(日経歌壇 9/29)

⇒「女子学生亡国論」も「医療費亡国論」も、いずれも昭和のニュース。「女子学生亡国論」は、1962(昭和37)年に暉峻康隆・早稲田大学教授が「週刊新潮」に発表した。

暉峻康隆教授は、女子の大学進学率上昇に伴い、文学部を中心に女子学生の比率が急上昇し、「文学部は女子学生に占領されて、いまや花嫁学校化している」と指摘した。今、こんなことをいう人は皆無だ。花嫁学校なる言葉も懐かしい。

一方の「医療費亡国論」は、当時の厚生省保険局長吉村仁が1983(昭和58)年1月31日の全国保険・年金課長会議において発表した「医療費増大は国を減ぼす」という論を指す。吉村は同会議で「医療保険制度をいま改革しなくては、必ず崩壊する」と発表した(Wikipedia)。さて、今はどうだろう。

厚生労働省は(2017年11月8日)、医療機関や薬局の経営状況を調べた2016年度の「医療経済実態調査」の結果を公表した。

運営形態別では、国立病院はマイナス1.9%(前年度比0.6ポイント減)、公立病院はマイナス13.7%(同0.9ポイント減)。国公立を除いた民間病院などは0.1%(同0.3ポイント減)で黒字を確保した(朝日新聞デジタル2017/11/9)。

作者は、近年、国立、公立病院経営に赤字が続いていることを危惧しているのだろう。ただ、ここは「医療費亡国論」の方が分かりやすい。

ポケットの中に小ポケットがある予備の心がある

(坂戸市 山崎波浪) 選者：永田和弘

選者評：内ポケットの哲学的考察?!

内ポケットの数だけ男にある世界あめ玉一つが残りてをりぬ

(豊橋市 鈴木昌弘) 選者：永田和弘

選者評：内ポケットの哲学的考察?!(以上二首 今日朝日歌壇から)。

私は、背広の右ポケットの中に小ポケットをつくり、いつも認印を入れている。左側の胸の内ポケットは手帳を入れている。

認印は何時必要になるかわからないからいつも持っている。つまり予備の心。内ポケットにあめ玉を入れる年代は過ぎた。今は名刺入れ付きのビジネス手帳だ。これも何時必要になるかわからないから予備の心。評者のいう「哲学的考察」ではない。この二首に「哲学的考察」を認める評者はプロの文学者?!

### 2018.10.28 今日の朝日歌壇から

なぜ牛を売ったと責めし日の父の沈黙の意味今なら分かる

(観音寺市 篠原俊則) 選者：馬場あき子 選者評：なし

⇒戦況が激しくなり、私が三重県の久居(現在の津市)から郷里の滝野町に引き上げてきたのは昭和20年の初春、敗戦で解



散になった日本国陸軍の残務処理のため12月まで久居に残った父を除く家族3人が本家の離れ家で暮らした。

この時、本家の祖母は、牛小屋で、馬喰から但馬牛の子牛・ベコを購入し、1年間くらい肥育して農作業に使い、これが終わると売却、また新しいベコを購入していた。祖母はまるで家族のようにベコの世話をしていた。

税理士になって初期の昭和45年頃、加西市鶉野の開拓地にあった乳牛を育てる鶉野酪農組合の税務顧問になった。事業規模が小さいので集団で申告指導をした。搾乳を切れ目なく行うため、種付けをして妊娠させる。子牛は生まれるとすぐ、売却された。短期間ではあったが、妊娠、授乳、搾乳などを教えていただいた。

丹波ひかみ農協の員外監事を務めた時（平成15年6月～平成24年6月 3期9年）には農協職員であった獣医さんから但馬牛の生産、肥育について詳しく教えていただいた。私の仕事は但馬牛の保存精液の棚卸立会いであった。

ベコを大きくした祖母も、但馬牛の生産農家も、ホルスタインの搾乳農家も、牛は家族同然、この歌の「なぜ牛を売ったと責めた親の沈黙の意味」を知る思いがする。税理士をして知った体験を思い出す。

二階家が壊され更地拡がりてニュータウンにも老年期来る  
（埼玉県 島村久夫） 選者：佐々木幸綱

選者評：団塊の世代が七十代に入ってきた実感。

⇒選者評にある通り全国のあちこちで、子や孫が住まなくなった家を取り壊され更地になっている。北播磨の市町では、ニュータウンが老年期になり歯抜けになっているが、地価の上昇した都会の好立地地区に行くと事情は異なる。

私の知る事例に、阪急京都線が敷設された時、新駅前に80坪、100戸程度の均一なニュータウンができた。それが今は子や孫が住まなくなり、1区画40坪2区画にして売り出された。これを購入した若い夫婦は、40坪の敷地に40坪の二階家を建て、駅前生活をエンジョイ。ニュータウンの模様替えが進んでいるのだ。このニュータウンに老年期は来ない。

さよならも言わず逝ったと父責めた母も静かに黙して逝きぬ  
（東京都 三宅康子）

⇒人生100年、高齢時代になり、老夫婦家族が増えた。この短歌の作者の父は何歳で逝き、あとに残った母は何歳まで生きたのか。

若くして病気や怪我で「さよならも言わず」急死した不幸なケースだろうか。そうではなく、老々介護で長くお互いに労わり合いの生活の後、亡くなったのであれば、先になくなった父を責める母もいないだろう。お互い、感謝の毎日を過ごしたい。

#### 2018.11.4 日経歌壇から 日経11/3

履歴書に志望動機をコピーするこれが動機だったらいいのに  
（松戸 内山裕樹） 選者：三枝昂之

選者評：コピー流行りの世相への嘆きをユーモラスに包んだところが楽しい。ハウツーものに頼ってしまいがちな私自身の反省を込めて共感。

⇒就職・転職のための履歴書と言えば、私の年代では、氏名、生年月日、現住所、連絡先、学歴、職歴、資格・賞罰など最低の個人情報を手書きで書いた。資格欄に書くことがなく、普通自動車運転免許証とだけ書いたことを思い出す。

最近ではパソコンで、志望動機、趣味・特技まで書いて量産



するらしい。ネットには「志望動機例文集」まで掲載されている。

この歌の作者は、本当の志望動機など特にないが、受かりそうな例文を探してコピペしているのだろう。面接で試験官に簡単に見破られることだろう。上手でなくともよいから自分の言葉で書こうとは忠告してあげたい。

コピペは、コピーして張り付ける Copy and paste、切り貼り Cut and paste することだ。これは、してはならない、恥ずかしいことだ。学説や他人の意見を引用する場合はルールを守るべきだ。

私は平成12年12月の第2次安倍内閣の発足以来、毎日「アベノミクスと日々話題」をテーマに事務所のホームページなどにブログを書いている。これを翌年初めに冊子にして知人に差し上げている。

毎朝、日経、朝日の2紙を読み、社説など無料のWeb版を丹念に読む。私のブログのルールは「最初に執筆年月日、テーマ、引用先を明記し、そのあとに新聞記事等の第一フレーズを引用、引き続き、・(ナカグロ) 以下に抜粋や要約、⇒以下に私の意見や所感を書くことを原則にしている。意見や所感内の引用は「 」を付している。

これは、新聞記事や社説からテーマを選び、学者や識者の意見を引用して、自説を組み立てるためだ。この手法を採ったのは、著作権法に触れることが怖いことが第1の理由だが、それ以外に私の意図は、学者、専門家の優れた意見から、考察力と語彙力を磨き、自分の言葉で折れない自説を組み立てることだ。

ブログを始めて、すでに5年と10か月が過ぎ、私も10月で満77歳になった。主要テーマであるアベノミクスも私の当初の期待を達成できていない。

私のブログも止める潮時が来たようだ。本年の集約版を印刷することを以て終わりにしたいと考えている。毎日のように読んでいただいた皆さまに感謝している。

## 2018.11.5 歌ってみよう「人生夢浪漫」

昭和15年に公開された映画「新妻鏡」の主題歌だったサトウハチロー作詞、古賀政男作曲の「目ン無い千鳥」は、もう一方の主題歌「新妻鏡」とともに大ヒットした。最近では、大川栄策などが歌っている。

この映画は、昭和31年に志村敏夫監督によって再映画化され、出演は池内淳子・高島忠夫らであった。昭和の映画、昭和の歌謡曲の代表。

ところが、カラオケでメロディや歌詞は知っているが、原作を知らないので歌詞の意味が分からない。どうやら美女がたどる数奇な運命と愛の物語らしい。

「目ン無い千鳥」は不慮の事故で失明した主人公で、良家の美女のことだと分かればタイトルも歌詞も哀しい。

そこで、同じメロディに乗せて、生涯、ポリオ後遺症で不自由ではあったが不幸でなかった「私の人生賛歌」にして歌ってみよう。

### 「人生夢浪漫」

作詞 西村勝彦

乗り越えられない試練はないと～  
いつも、いつも言ってきた～  
私の人生 夢浪漫～  
いつも誰かに助けられ～

## 2018.11.12 加東近代史を彩る人物像

先日、藤本百男県議から「県政資料V―兵庫県政150年記念」をいただいた。これは藤本県議の議員活動ブログと歴史ブログに掲載されたものから編集されており、I 加東近代史を彩る人物像 P 1～42 II 平成29・30年度の議員活動の記録 P 43～153の2編に分かれている。

私の関心は前編の郷土の近代史の偉人にある。ここで採り上げられているのは、①山田錦の藤川悌次 ②釣針製造の元祖 小寺彦兵衛 ③自由民権運動家 高瀬藤次郎 ④加古川舟運の祖 阿江与助 ⑤社町生まれの美人画家 三木萃山 ⑥幕末の蘭学者 村上代三郎 ⑦マキンタラワ激戦の指揮官 柴崎恵次郎中将 ⑧日本運送の大橋実次 ⑨明治の尋常小学校の中に採り上げられた孝女ふさ ⑩1964年オリンピック馬術競技に出場した勝本正則 ⑪初代加東郡県議 井上真九郎 ⑫青野ヶ原新田の開拓を手掛けた大久保喜市郎 の12人。

いずれもよく知られた郷土の偉人ばかりだが、私はここにもう一人坂本遼を加えておきたい。

・兵庫県加東市東条地域出身の詩人坂本遼（1904～70年）について学んでいる東条西小学校（同市吉井）と東条東小学校（同市掎鹿谷）の6年生計59人が8日、生家（同市横谷）を訪れて交流した。同行した坂本の三男章さん（70）＝西宮市＝の話に耳を傾けたほか、坂本が作詞した両校の校歌を披露し合い、郷土の詩人への理解を深めた。

坂本遼は詩人草野心平に見いだされ、1927年に詩集「たんぼ」を刊行。家族への愛情や農村の暮らしを播州弁で詠んだ。児童詩雑誌「きりん」の編集にも尽力。章さんも、子どもの詩の発表会や父の業績を知ってもらおう活動を通して東条地域の活

性化に取り組んでいる（神戸新聞NEXT 2018/2/8から）。

⇒関学の大先輩、坂本遼は1923（大正12）年、関西学院大学英文科に入学。同級生に竹中郁がいた。1931（昭和6）年、朝日新聞大阪本社に入社、社会部記者となる。その後、応召、従軍体験を経て帰還した（Wikipediaから）。

大正年間に、加東市横谷の田舎から私学の関西学院大学英文科に入学した英才がいるのだ。どれほどの資産家かと思うがそうでもない。小学校5年生の国語教科書（昭和55年～昭和57年使用 光村図書）に、名詩の鑑賞の教材として『春』と題する詩が掲載されている。改めて読んでみよう。

春

坂本 遼

おかんはたった一人  
峠田のてっぺんで鋤にもたれ  
大きな空に  
小ちゃいからだを  
びょっくり浮かして  
空いっぱいになく雲雀の声を  
ずっと聞いてゐるやろで

里の方で牛がないたら  
ずっと余韻に耳をかたむけてゐるやろで

大きい 美しい  
春がまわってくるたんびに  
おかんの年がよるのが

目に見えるようで かなしい  
おかんがみたい

⇒関西圏では母親のことを「おかん」父親は「おとん」という。大正生まれの私の「おとん」は陸軍軍人だったが、同じ大正生まれで、ポリオ障害者の私を育てた私の「おかん」は偉かった。おかんの苦勞が目に見えるようで かなしい もう一度おかんがみたい。

#### 2018.11.19 朝日歌壇から 朝日11/18

今ならば検索で五分の調べもの図書館にこもった我が青春よ  
(東京都 上田結香) 選者：永田和弘  
選者評：答えが返って来るまでが学びの本質、五分で得た答えは五分で忘れる。

⇒この短歌、毎日ブログを書く身には堪える。パソコン検索で得た知識を使って論理を組み立てる習慣が抜けない。ただブログに客観性を持たせるといふ動機と、著作権法違反回避の論理で出典は必ず記載している。

高齢者になると、知識や経験は豊富になっているはずなのでパソコンで検索、引用しないでもっと自由に文章を組み立てたいが、従来からの癖もある。

ただ評者の言う通り「答えが返って来るまでが学びの本質」であることには異論がないので、自分の言葉やフレーズで発信できるように研鑽を続けたい。

ところで、図書館は小中学校、高校、大学ばかりか、全国各地に公立図書館がある。パソコンが普及する前のことになるが、自治体監査委員となり、小中学校図書館の蔵書とその保管状況

を監査した。あまりにも古い年鑑、百科事典などが並んでおり、これでは「調べものできないではないか」と指摘した。担当者の対応は「予算がない、生徒が図書館に来ない」ということであった。

それでは、公立図書館はどうか。人口4万人の加東市にも市内に図書館は3館ある。私は、滅多に行かなくなったが、調べものとの関係のない高校生の自習と高齢者の新聞、雑誌読みが多いように感じる。

旧滝野町が大規模町立図書館をつくった時、大阪府立図書館から来られた新任の図書館長は、児童書や絵本を豊富にそろえ、図書館を「お母さんと児童のくつろぐ場所にしたい」と運営方針を示された。これは成功した。

小学生でもスマホ、タブレットを持つ時代に「図書館にこもって調べもの」をする人は少ない。調べたい事項もパソコン検索で得られる分量や内容が圧倒的に多い。従って、図書館でパソコン検索する人も多い。

私の時代の大学の卒業論文、大学院の修士論文は、文字通り図書館にこもって原典を探し出して読み、必要な部分は料金を払ってコピーした。論文の字数、枚数を超えるコピーの束が残った。今の大学生はコピーで卒論を完成しているとまでは言わないが、時代の変化を感じる。

#### 2018.12.1 今日の日経歌壇から

来し方に誤りなしと言えねども常に真摯でありきと言える

(茅ヶ崎 磯田 清) 選者：三枝昂之

選者評：「誤りなしと言えねども」と留保するから「ありき」の言い切りに滲む矜持きやうじが尊い。

⇒高齢者になり、人生の「来し方に誤りなし」などと思えないが「真摯でありき」と言い切る矜持はすばらしい。多くの友人、知人など面識のある方を思い浮かべると「真摯な方だねえ」と思う人がいる。ただ、これって自分で言うことでも、その人に向かって言うことでもないだろう。

作者は、自分の来し方を振り返り、理解した上で歌にしたのだろう。お手本にしたい、目標にしたいすばらしい生き方だ。

口癖の「真摯」「丁寧」「しっかりと」さらに「誠実」聞くたびに「嗚呼」 (長野 山口恒雄) 選者：三枝昂之

選者評：「嗚呼」と漏らしてしまうのは誰か。口癖四つが適格だからおのずから、然る方が浮かんでくる。

⇒この口癖の方はどんな仕事をしているのだろう。首相か、大臣か、自治体の首長の答弁かと皮肉りたくなる。

不祥事が明るみにでると、「粛々と」、「冷静に検証だの反省します」と言いながら、いわゆる、まさに…と意味不明の釈明を聞くことが増えたように思う。

恥ずかしいことだが、作者が「嗚呼」と嘆く口癖は、ブログを書いている、文末の締めくくりに使いたくなることがある。便利な言葉だが、実質的内容が伴わないとすぐに見破られてしまう。反省することしきり。

ちっぽけでも守りたい矜持あり踏まれて気づく小石のような (東京 菊田 裕) 選者：三枝昂之 選者評：なし

⇒矜持は、自分の能力を信じていただく誇り、自負、プライドだ (広辞苑7版)。

矜持はプライドや誇り、自信、自負を持っている場合に使うが、この言葉には「自分の能力が優れていると思う人が自信や誇りを持っている」という意味で使うので、使い方を間違えると

誤解される。

私もよく使ってきたが、かなり確定的な裏付けのある場合に限り使う言葉だと理解して慎重に使っている。

この歌の作者は「ちっぽけでも守りたい矜持あり」。「人に自慢するようなことでもない」「踏まれて気づく小石のようなものだ」と言う。これならだれにでもある。「お爺ちゃんの矜持は…」と孫に聞かせてやろう。

## 2018.12.2 今日の朝日歌壇から

ストライクゾーンが広いと言われてる 断り切れない弱さ

(福岡県 末松博昭) 選者：佐々木幸綱 選者評：なし

⇒相手を傷つけず申し出や依頼を断るのは難しい。しかし、できないことは断らないと後で迷惑をかけることが多い。

私は、若い時は、比較的明確に賛否や諾否を述べていたが、ある時期からは「イエス、バット Yes but」(一旦イエスと受け入れ、その後、説明をしてお断りする) ことが増えた。

あいまいな返事をして人間関係を壊さないように、各人各様の断りの流儀があるのだから、この歌の作者のように「ストライクゾーンが広いからと言って弱さを嘆くこともないだろう。

ただ「ポーっと生きてんじゃねえよ」長生きに読書が一番と統計に出た

(鎌倉市 鈴木栄次) 選者：高野公彦 選者評：なし

⇒5才のチョコちゃんが問いかける素朴な疑問に、知らないでいると、チョコちゃんに「ポーっと生きてんじゃねーよ！」と叱られるNHKのクイズ番組。

私は、土曜日の午前8時15分からの再放送を見ているが、問題は今まで考えたこともなかった問題ばかりのお笑い番組だが



面白い。

アメリカで「読書が長生きにつながる」という研究があるらしい (A chapter a day: Association of book reading with longevity. Bavishi A et al., Soc Sci Med. 2016 Sep;164:44-48. doi: 10.1016/j.socscimed.2016.07.014. Epub 2016 Jul 18. 難解な英文の論文ですがNetで読むことが可能)。

・本を読むと、自分の知らない世界や過去についての知識や見聞が広がります。また、登場人物に共感することによって、いろいろな感情が呼びさまされるでしょう。これらの全てが、脳に刺激をもたらすと考えられます。さらに、現実から離れて本に没頭することは、脳の良い気分転換にもなるでしょう。その結果、たとえ体を動かさなくても認知機能を高める効果を生み出し、体に良い影響を与えるのだと考えられます (Nifty ニュース 2018/11/29)。

⇒真偽はともかく、この歌の作者は、これまで読書続けてきた人だろうか、それとも今から読書を始める人か。後者なら手遅れにならないように。長い読書生活を続けている私は信じてみたい。認知症にならないためにも。

研修生などと呼ばれて異国の子蓮田の泥のズボン脱ぎおり  
(行方市 鈴木節子) 選者：馬場あき子

選者評：外国人が「研修生」の名で技術を学ぶのか、労働力と見なされているのか、わからない状況も多い。泥にまみれた冷たいズボンに何を感じたのだろうか。

⇒若い異国の研修生が、れんこんの栽培を行う泥田・泥沼<sup>はす</sup>「蓮田」で泥だらけのズボンを脱いでいる光景を詠んだ歌。選者評にある通りこの作業のどこが技術研修かと思いたくなる。

この歌の蓮田の研修は技術とは名ばかりで実態は単純労働、

国に帰って役にたつ技術はなく、国元への送金だけが研修生の希望だと思える。

北播磨の製造現場で働く研修生にも同様の状態で作業に従事する研修生がいるだろう。実態を知ればこれほど、本音と建て前の異なる政策も少ないだろう。

## 2018.12.21 リカレント教育の制度化 日経・やさしい経済学から

リカレント教育 (社会人の学び直し) について米国では、高卒社会人や学校を中途退学した人たちが20歳代後半から40歳代になって学び直して大卒学歴を得ることがイメージされます。

これに対して日本では、大卒社会人のスキルアップのための大学院進学、退職大卒層の教養としての学び、専門学校での個別スキルの取得など多様な例がある中で、高卒社会人が地位向上を目指して大学で学び直すという例はそれほど多くはありません (「学歴と人生の格差」大阪大学教授・吉川徹稿)。

⇒日本で高卒社会人が地位向上を目指して大学で学び直すという例が少ない最大の理由は、筆者が言う「経済的な利得が確実ではない」ことだ。「社会人の場合、キャリアを中断するか、働き方を調整しなければならず、その分の逸失所得が生じる」。それを勘案して人生の半ばで1,000万円前後を自分自身に投資することに躊躇する。

文部科学省の資料によると、①社会人特別入学者選抜を行っている大学は551校・入学者1,175人 (27年度)。大学院461校・8,144人。②夜間に授業を行う大学42校 (28年度)。夜間に教育を行う大学院329校。③通信教育を行う大学学部44校・21万1,175人。大学院27校・8,466人。④専門職大学院114校・162専攻とな



っている（文部科学省の資料「生涯を通じた学習機会・能力開発機会の確保に向けた大学等における社会人の学び直し」（平成29年3月13日））。

日本では、学校卒業後の教育は、就職した企業等の社内教育で行う時代が長く続いてきたが、近年、リカレント教育（社会人の学び直し）の必要性が認識され、大学の社会人入試の実施、社会人を対象とした大学および大学院への編入、夜間大学や専門職大学院の設置、大学公開講座など学びの場の整備が徐々に進んでいる。

私は自治体公務員に日常業務に必要な高度な専門的知識を与えるため「リカレント教育機会を与えよ」と主張しているが普及は容易に進まない。

その主な理由は、リカレント教育適齢期の30代、40代の中堅幹部職員が通信教育で大学資格を得て（高卒者の場合）、大学院に学ぶ（大卒者）ことは経済的にも体力的にも困難だ。このタイプを選ぶ職員には、通学の便のよい駅前サテライト教室での大学の科目履修制度や大学公開講座受講が好ましい。しかし時間が確保できない、ニーズに合ったカリキュラムがない、受講料の負担が大きいなどの理由により受講を躊躇し希望者が少ない。

自治体職員教育には、従前からOJTによる業務研修によるゼネラリスト志向が強く、年功序列、終身雇用制度が色濃く残っている。また、職員間に自主的リカレント教育を尊重する風土が育っていないようにも見受けられる。

従って、地方自治体が「職員の修業機会を創出するための制度設計」を実行しない限り、リカレント教育は根付きにくいのが現状だろう。中央官庁の幹部職員同様に、地方自治体幹部職

員にも高度専門知識等を学ぶ機会を与える「リカレント教育の制度化」を期待したい。

※文科省の資料「文科省における社会人の学び直し推進に関する主な取り組み」の項に、①経済的支援 ②人材ニーズに応じたカリキュラム ③学びやすい環境整備等、詳細な紹介がある。